第５章　石狩管内・首都圏の若手社会人の意識調査

１　調査の概要

（１）調査内容

・石狩管内と首都圏に勤務する若手社会人に対し、就活時の状況、働き方への意識、地元定着意向、起業への関心等を尋ねる意識調査を実施した。

（２）実施方法

・SNS ユーザーに対し回答者を募集し、ネット画面を通じ回答してもらった。

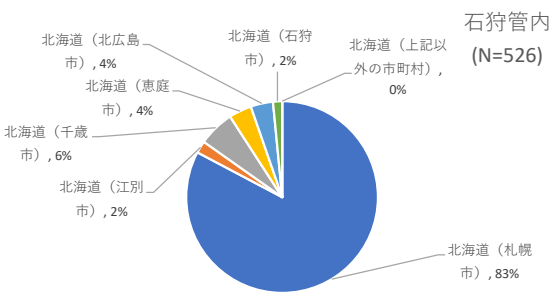
（３）回収状況

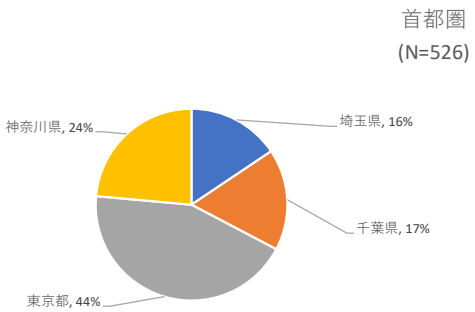
・石狩管内 526 名、首都圏 526 名より回答を得た。

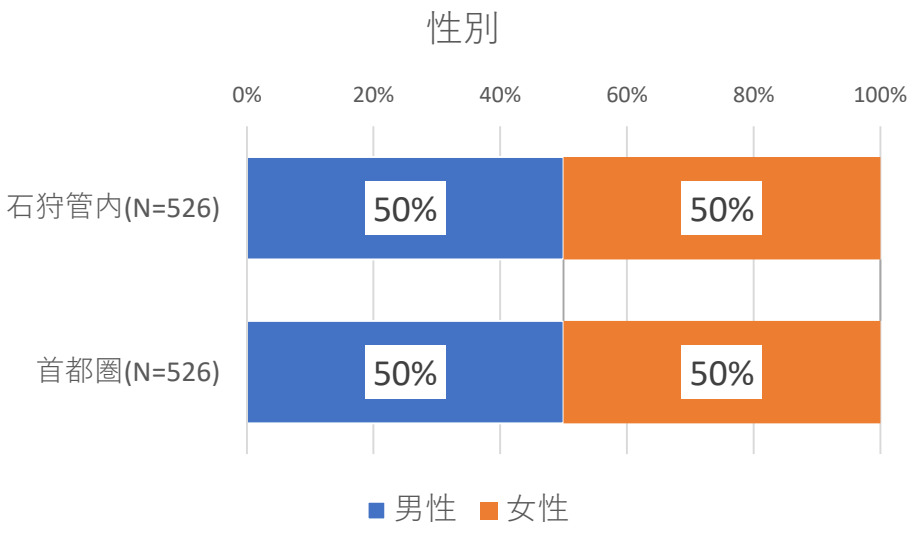
２　調査結果

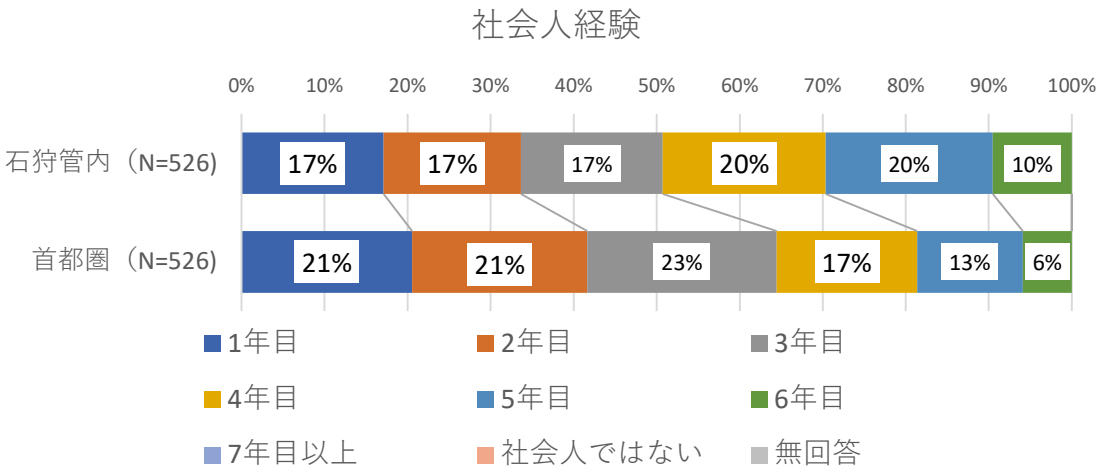
（１）基本属性

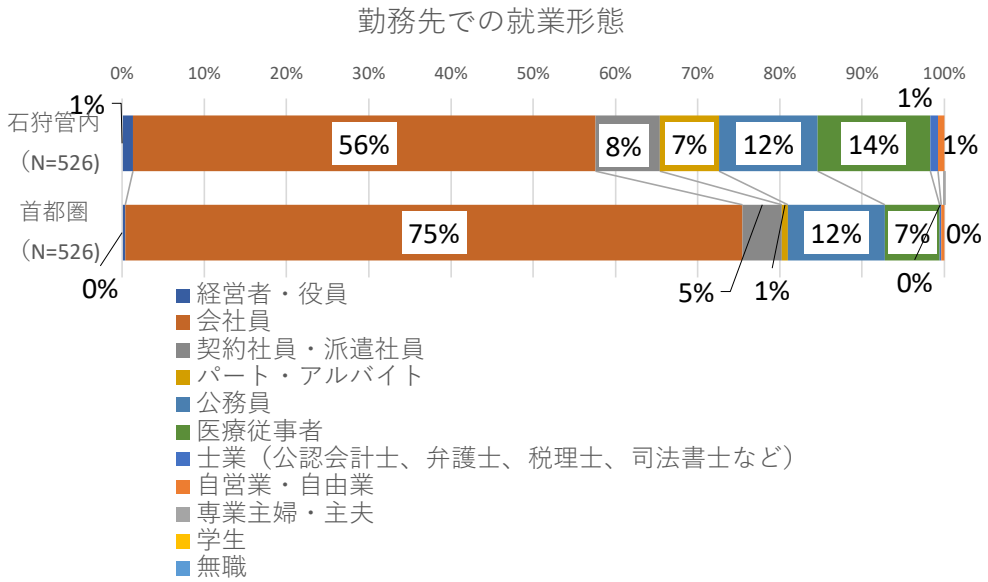
・石狩管内の若手社会人の勤務先は「札幌市」が 83%、首都圏の若手社会人は「東京都」が 44%となっている。
・性別は男女半々となっている。
・社会人経験は、石狩管内の若手社会人は「4 年目」「5 年目」が 20%で最も多く、首都圏の若手社会人は「3 年目」が 23%で最も多くなっている。
・就業形態は「会社員」（石狩管内 56%、首都圏 75%）が最も多くなっている。
・勤務先の従業員数は、石狩管内の若手社会人は「1001 人以上」が 31%、「50 人以下」が 19%、首都圏の若手社会人は「1001 人以上」が 43%、「50 人以下」「51～100 人」が 11%となっている。
・業種は、石狩管内は「官公庁・団体」（11%）、「サービス（その他）」（10%）、「IT（情報・インターネットサービス）」（5%）、首都圏は「IT（情報処理・ソフトウェア）」（12%）、「官公庁・団体」（10%）、「サービス（その他）」（8%）の順となっている。



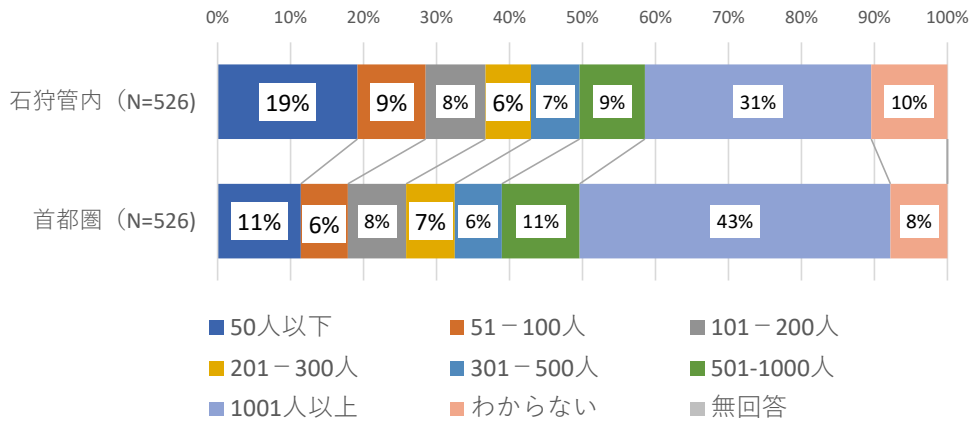



性別
0%
20%
40%
60%
80%
100%
石狩管内(N=526)
50%
50%
首都圏(N=526)
50%
50%
男性
女性

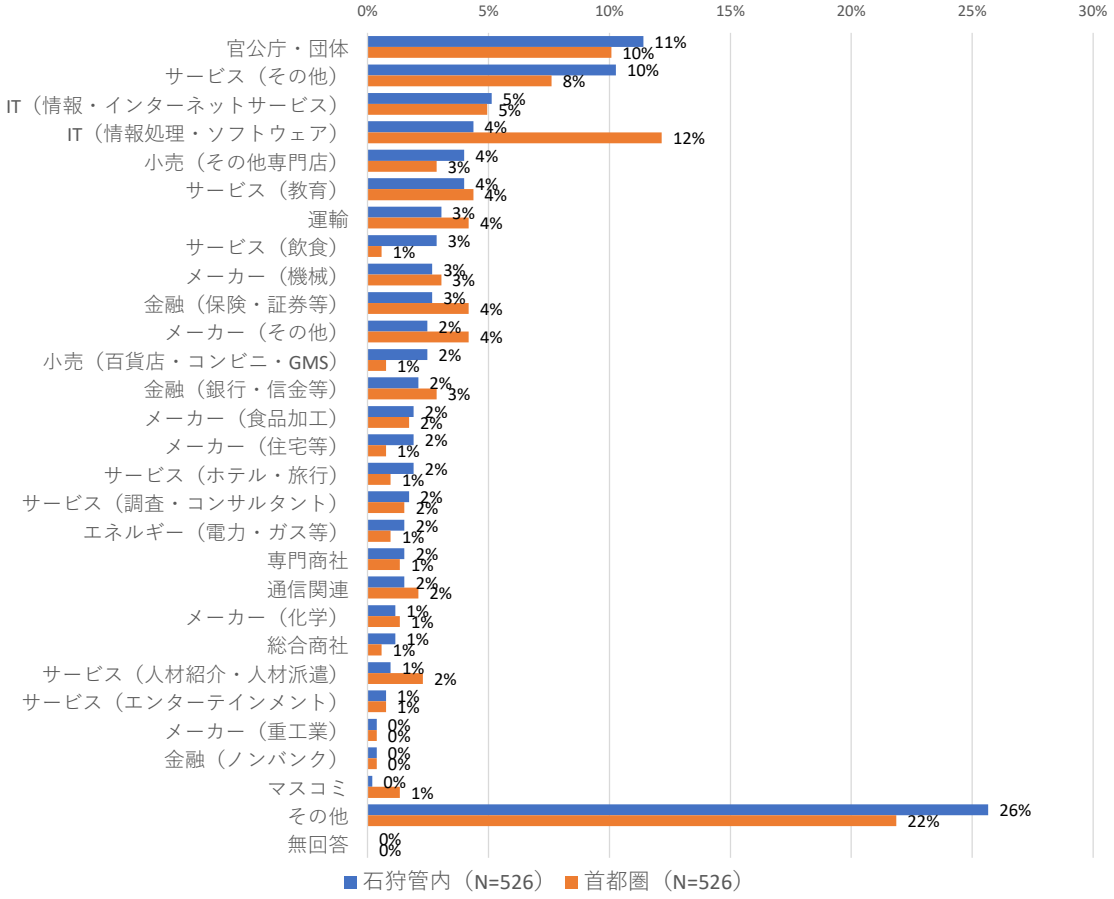

社会人経験
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
石狩管内（N=526）
17%
17%
17%
20%
20%
10%
首都圏（N=526）
21%
21%
23%
17%
13%
6%
1年目
2年目
3年目
4年目
5年目
6年目
7年目以上
社会人ではない
無回答


勤務先での就業形態
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
石狩管内
（N=526）
1%
56%
8%
7%
12%
14%
1%
1%
首都圏
（N=526）
0%
75%
5%
1%
12%
7%
0%
0%
経営者・役員
会社員
契約社員・派遣社員
パート・アルバイト
公務員
医療従事者
士業（公認会計士、弁護士、税理士、司法書士など）
自営業・自由業
専業主婦・主夫
学生
無職

勤務先の従業員数


0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
石狩管内（N=526）
19%
9%
8%
6%
7%
9%
31%
10%
首都圏（N=526）
11%
6%
8%
7%
6%
11%
43%
8%
50人以下
51－100人
101－200人
201－300人
301－500人
501-1000人
1001人以上
わからない
無回答

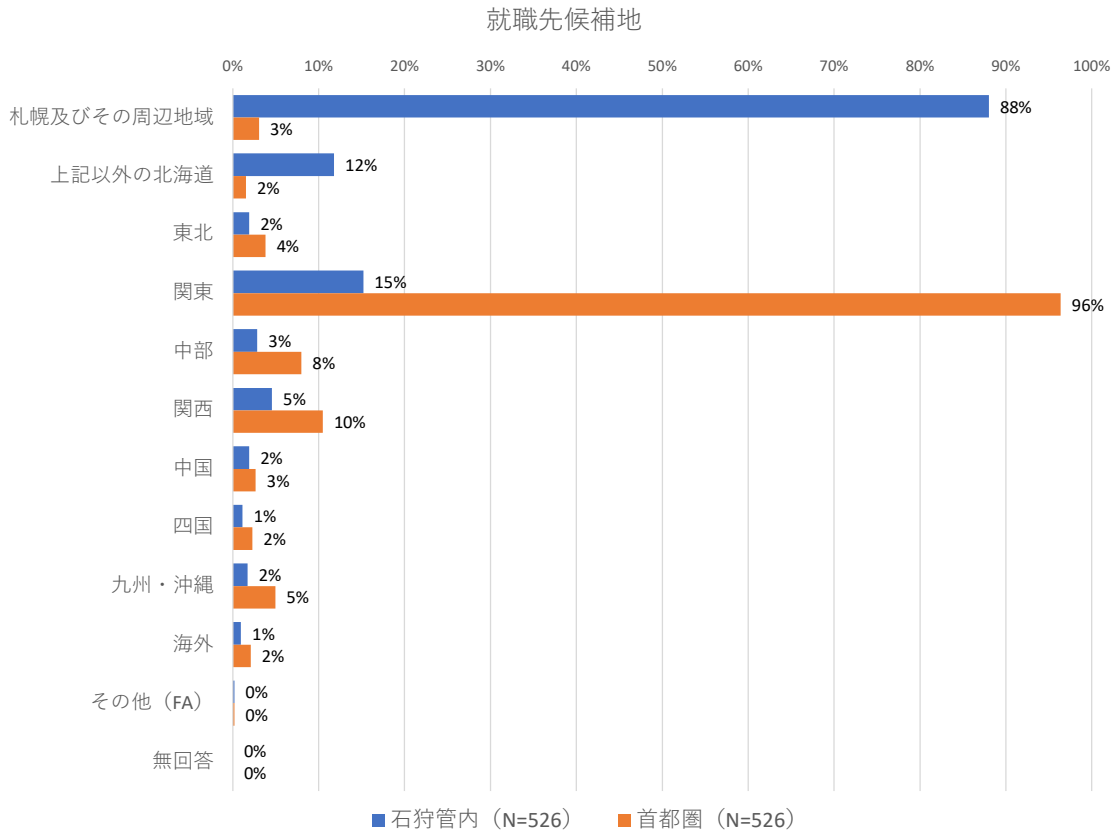
業種


0%
5%
10%
15%
20%
25%
30%
官公庁・団体 11% 10%
サービス（その他） 10% 8%
IT（情報・インターネットサービス） 5% 5%
IT（情報処理・ソフトウェア） 4% 12%
小売（その他専門店） 4% 3%
サービス（教育） 4% 4%
運輸 3% 4%
サービス（飲食） 3% 1%
メーカー（機械） 3% 3%
金融（保険・証券等） 3% 4%
メーカー（その他） 2% 4%
小売（百貨店・コンビニ・GMS） 2% 1%
金融（銀行・信金等） 2% 3%
メーカー（食品加工） 2% 2%
メーカー（住宅等） 2% 1%
サービス（ホテル・旅行） 2% 1%
サービス（調査・コンサルタント） 2% 2%
エネルギー（電力・ガス等） 2% 1%
専門商社 2% 1%
通信関連 2% 2%
メーカー（化学） 1% 1%
総合商社 1% 1%
サービス（人材紹介・人材派遣） 1% 2%
サービス（エンターテインメント） 1% 1%
メーカー（重工業） 0% 0%
金融（ノンバンク） 0% 0%
マスコミ 0% 1%
その他 26% 22%
無回答 0% 0%
石狩管内（N=526）
首都圏（N=526）

（２）就活時の就職先候補地

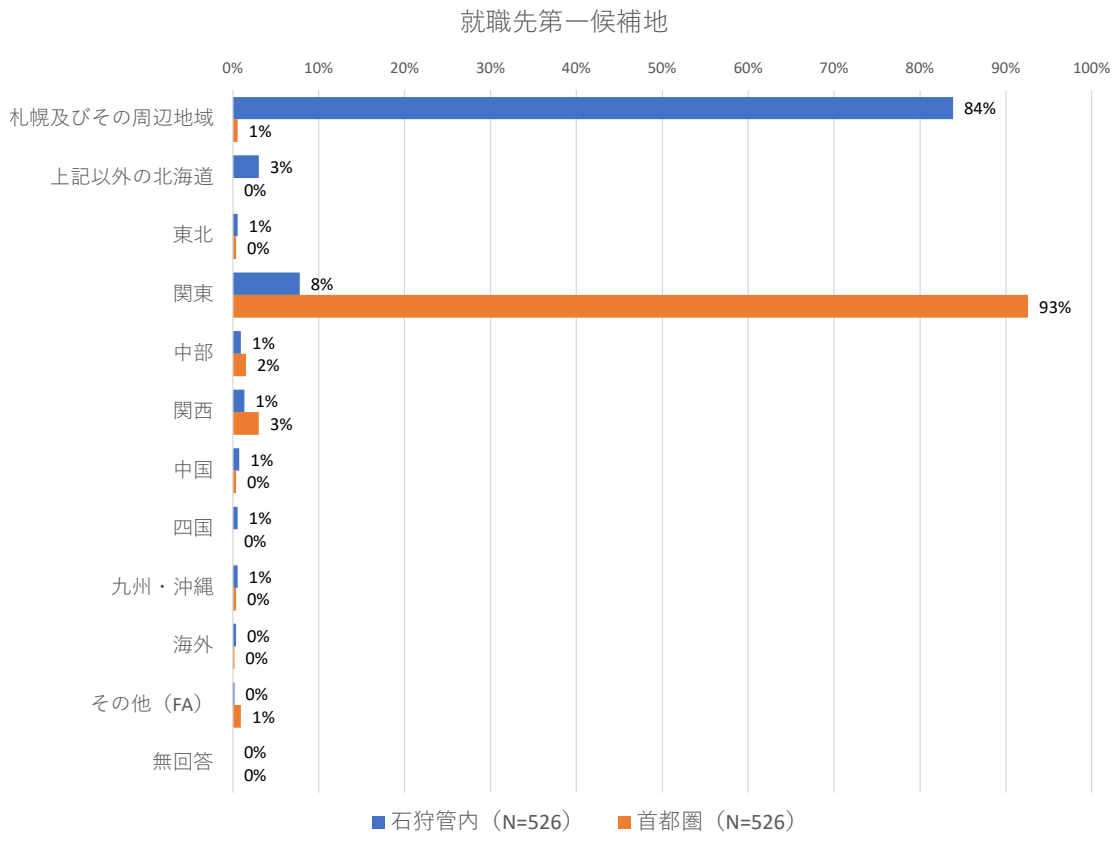
①就職先候補地（複数回答）

・石狩管内の若手社会人は「札幌及びその周辺地域（≒石狩管内）」（88%）が多く、首都圏の若手社会人は「関東」（96%）、「関西」（10%）の順となっている。



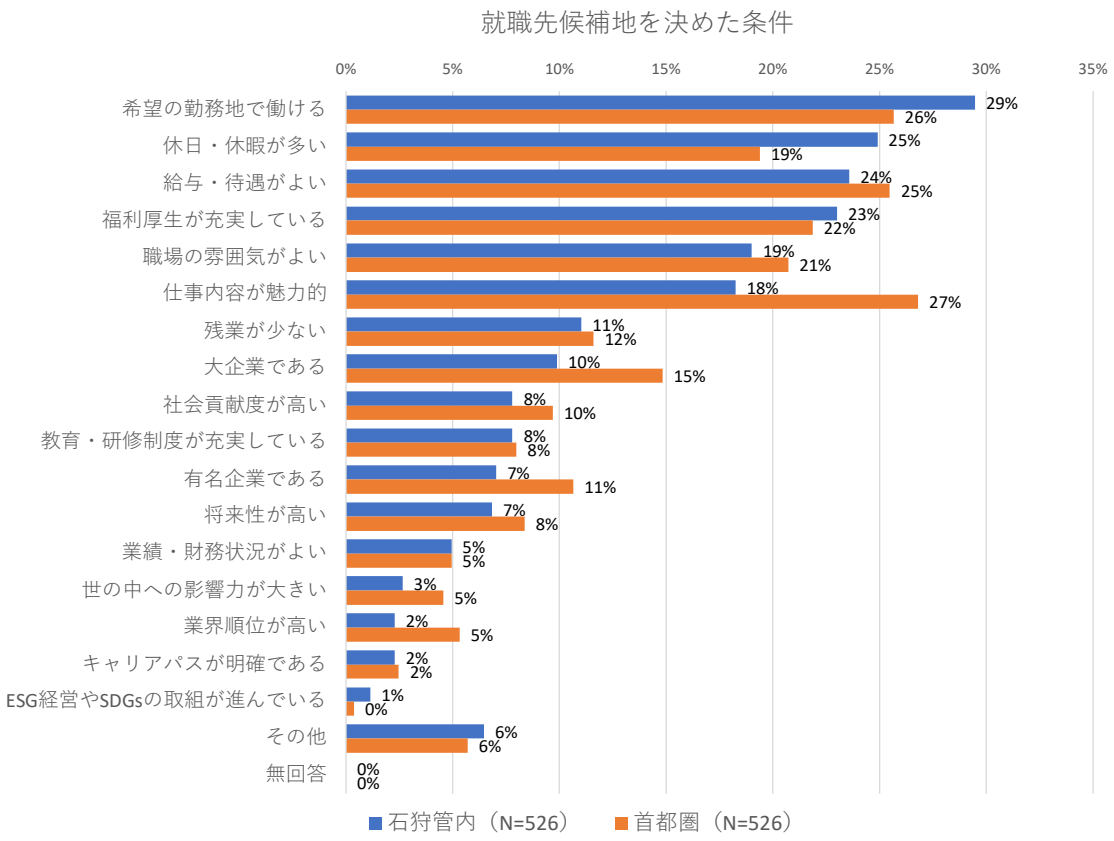
②就活時の就職先第一候補地（単数回答）

・石狩管内の若手社会人は「札幌及びその周辺地域（≒石狩管内）」（84%）が最も多く、首都圏の若手社会人は「関東」（93%）、「関西」（3%）の順となっている。



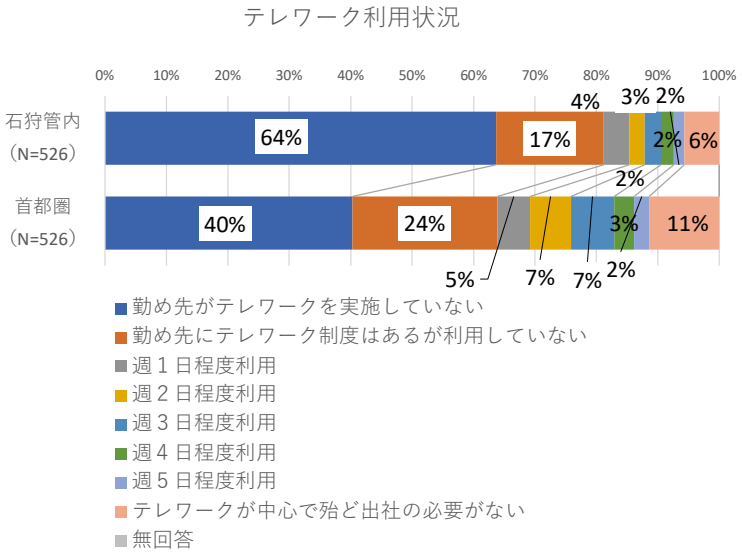
③就職先候補地を決めた条件（複数回答）

・石狩管内の若手社会人は、「希望の勤務地で働ける」（29%）、「休日・休暇が多い」（25%）、「給与・待遇がよい」（24%）の順となっている。
・首都圏の若手社会人は、「仕事内容が魅力的」（27%）、「希望の勤務地で働ける」（26%）、「給与・待遇がよい」（25%）の順となっている。
・「仕事内容が魅力的」について、首都圏の若手社会人（27%）と石狩管内の若手社会人（18%）に差が見られる。



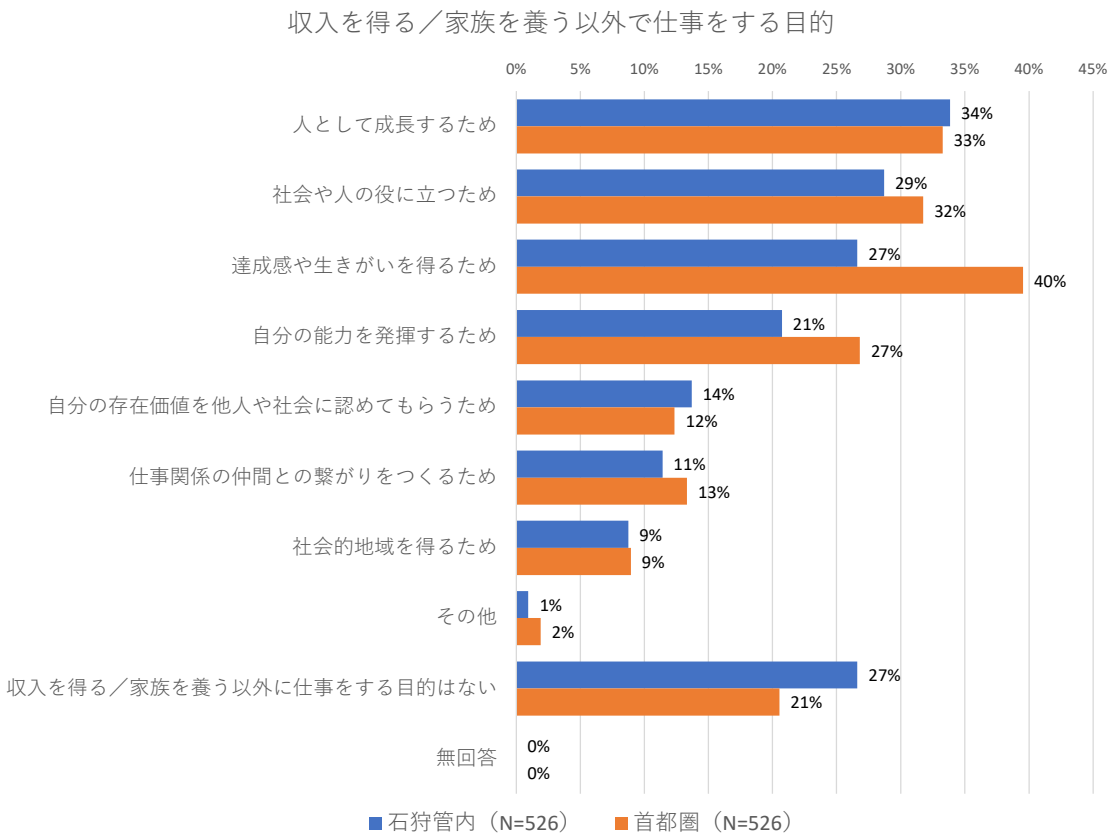
（4）テレワーク利用状況

・「勤め先がテレワークを実施していない」との回答は石狩管内の若手社会人は64%、首都圏の若手社会人は40%となっている。
・テレワークの利用があるとする回答では、石狩管内・首都圏の若手社会人ともに「週1日程度」が最も多い（石狩管内17%、首都圏24%）。



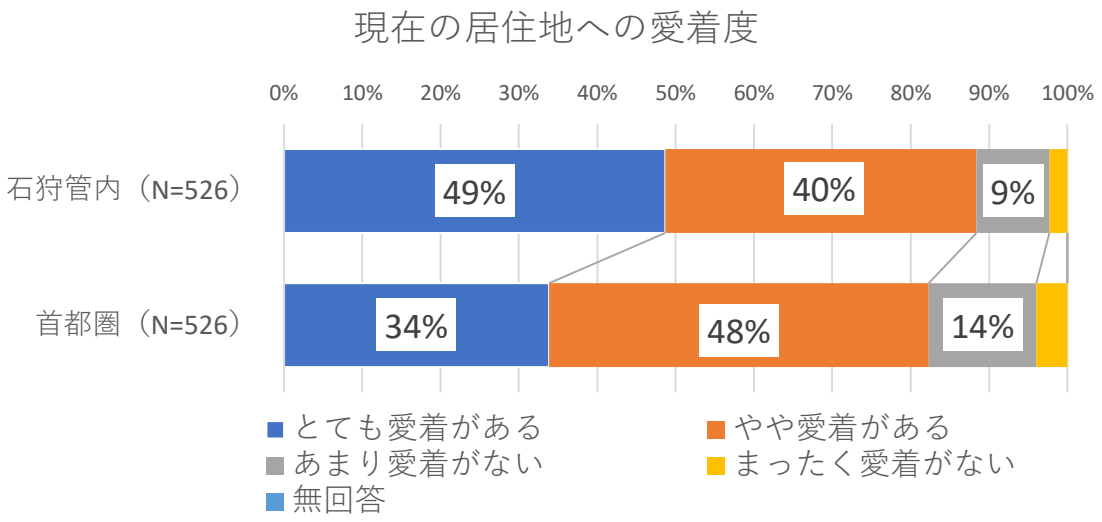
（５）収入を得る／家族を養う以外で仕事をする目的（複数回答）

・石狩管内の若手社会人は「人として成長するため」（34%）、「社会や人の役に立つため」（29%）、「達成感や生きがいを得るため」（27%）の順となっている。
・首都圏の若手社会人は「達成感や生きがいを得るため」（40%）、「人として成長するため」（33%）、「社会や人の役に立つため」（32%）の順となっている。



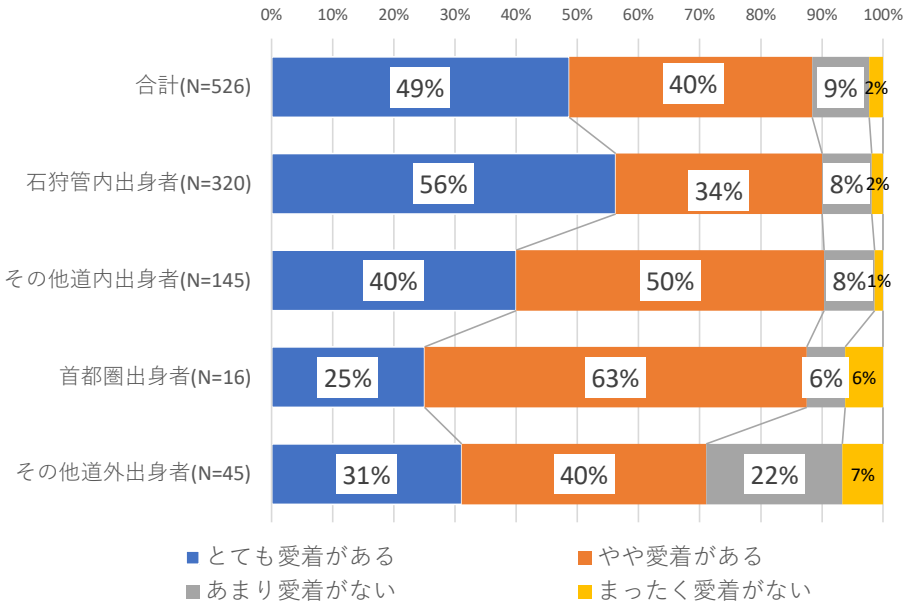
（６）現在の居住地への愛着度

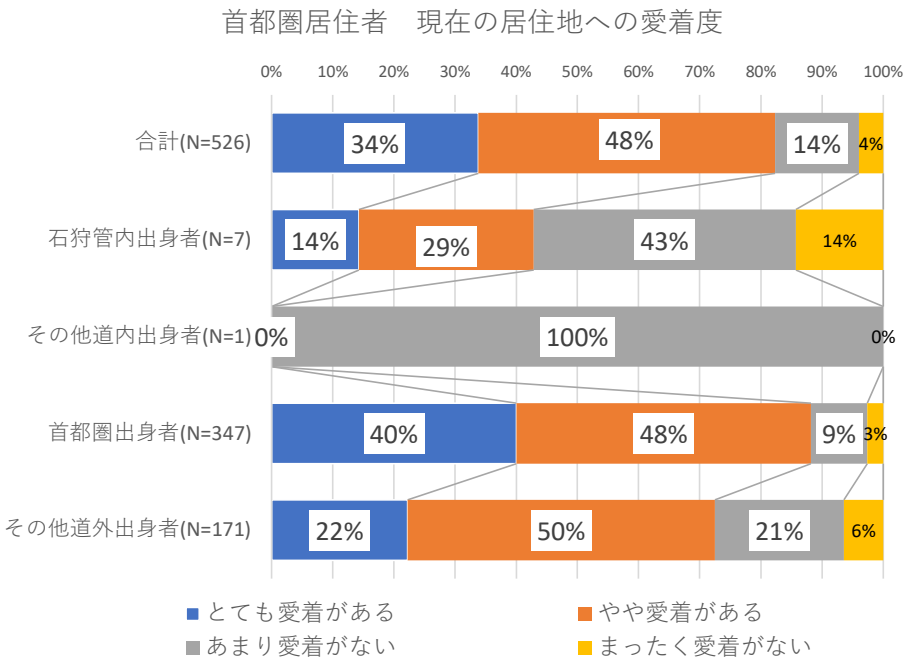
・石狩管内の若手社会人は「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計が 89%、首都圏の若手社会人は「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計が 82%となっている。



・これを出身地域別にみると、石狩管内居住者の現在の居住地への愛着度（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）は、石狩管内出身者が 90%、その他道内出身者が 90%、首都圏出身者が 88%、その他道外出身者が 71%となっている。
・同様に首都圏居住者の現在の居住地への愛着度（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）は、石狩管内出身者が 43%、その他道内出身者が 0%、首都圏出身者が 88%、その他道外出身者が 72%となっている。

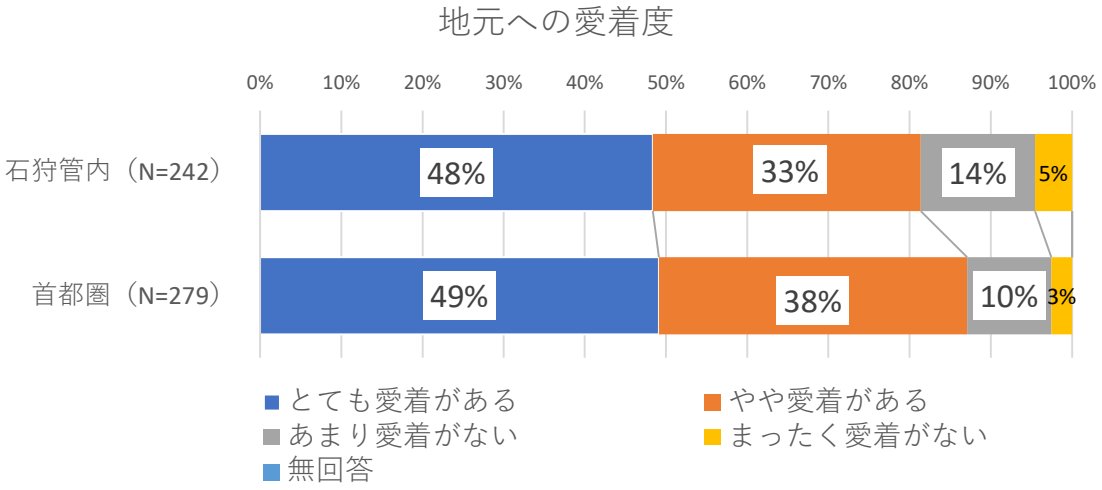
石狩管内居住者　現在の居住地への愛着度



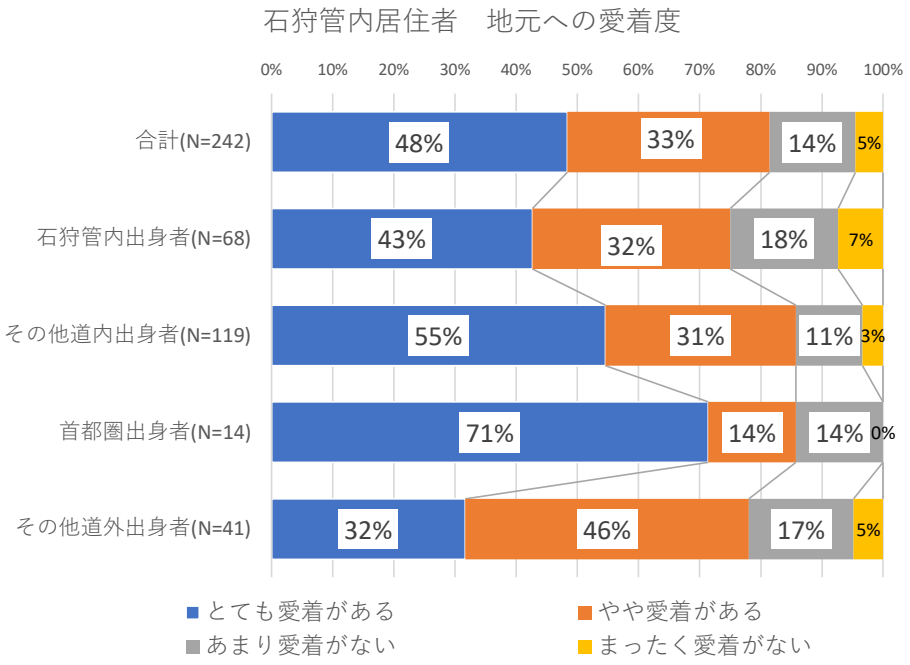


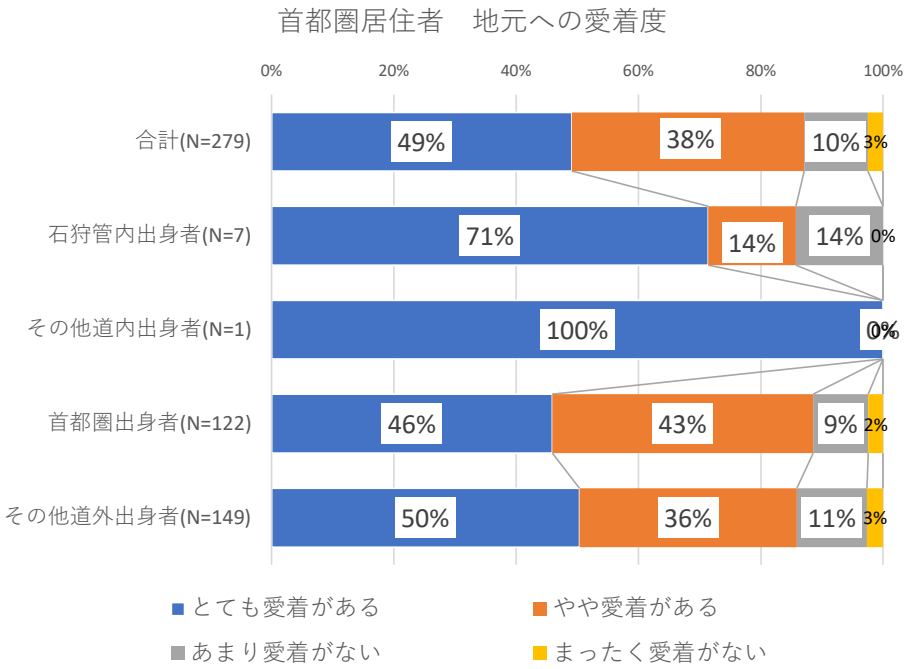
（７）地元への愛着度

・石狩管内の若手社会人は「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計が 81%、首都圏の若手社会人は「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計が 87%となっている。



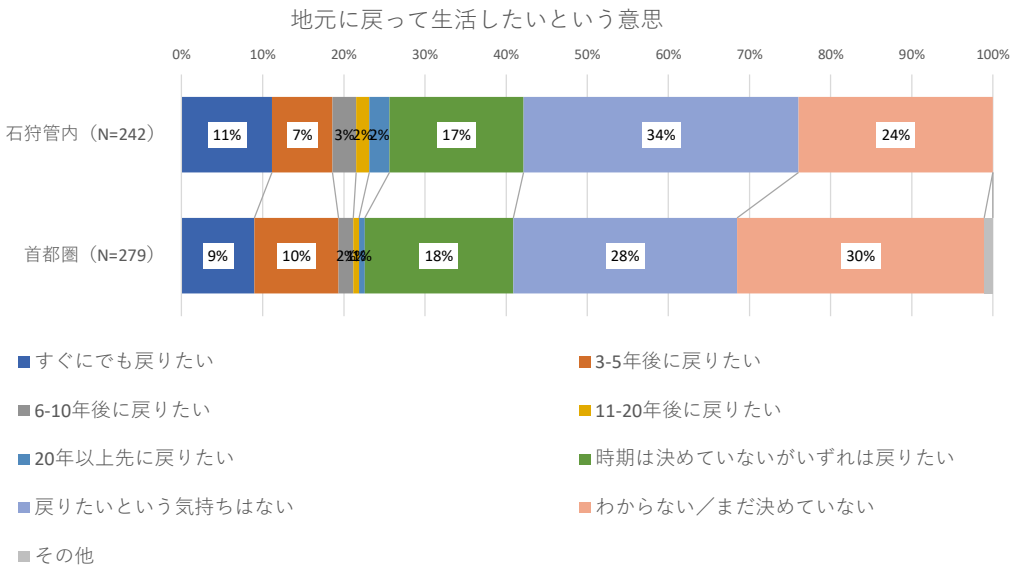
・これを出身地域別にみると、石狩管内居住者の地元への愛着度（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）は、石狩管内出身者 75%、その他道内出身者が 86%、首都圏出身者が 85%、その他道外出身者が 78%となっている。
・同様に首都圏居住者の地元への愛着度（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）は、石狩管内出身者が 85%、その他道内出身者が 100%、首都圏出身者が 89%、その他道外出身者が 86%となっている。





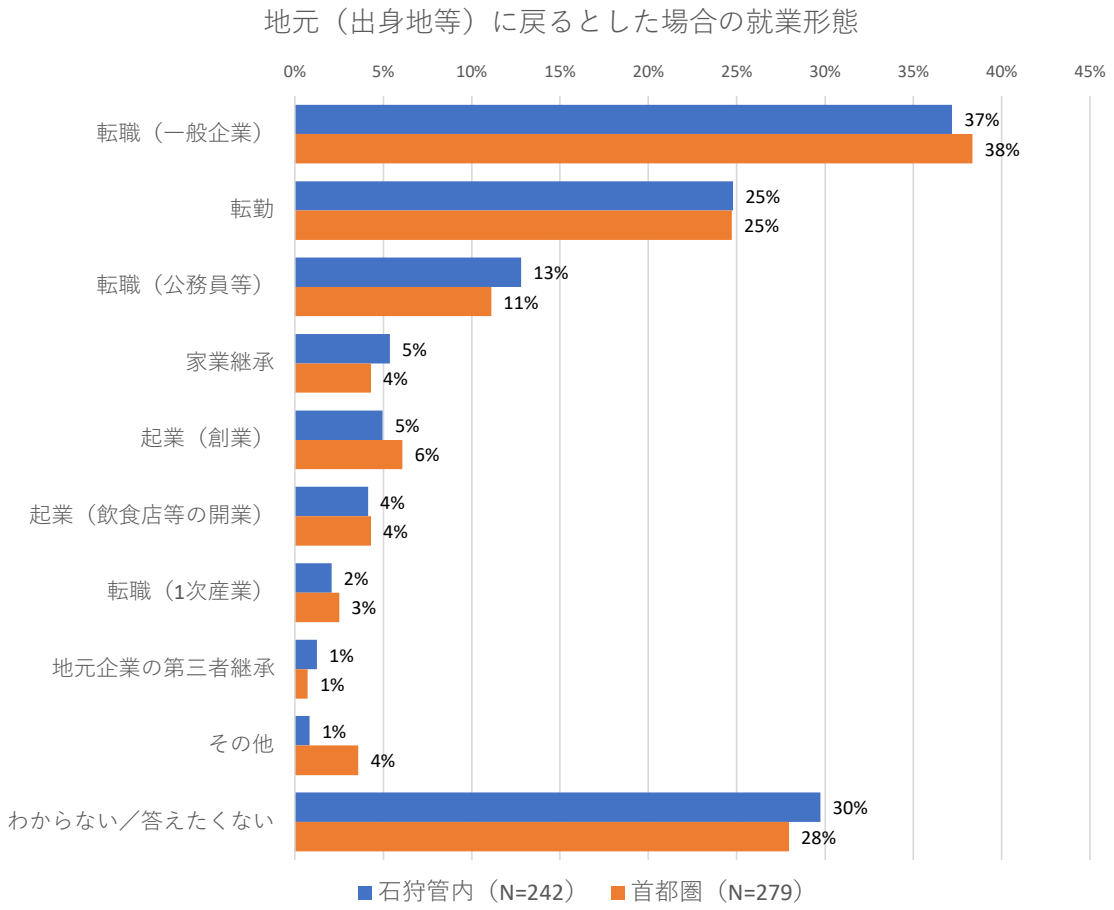
（８）地元に戻って生活したいという意思（地元を離れている方のみ対象）

・「すぐにでも戻りたい」～「時期は決めていないがいずれは戻りたい」を合計すると、石狩管内の若手社会人は 42%、首都圏の若手社会人は 41%となっている。



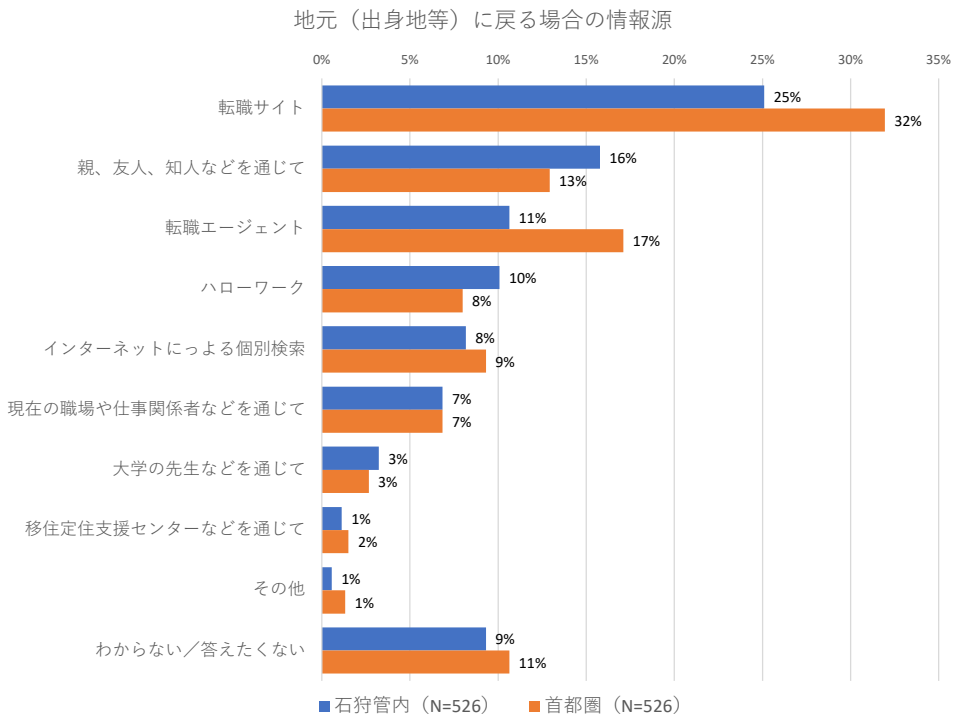
（９）地元（出身地等）に戻るとした場合の就業形態（複数回答）

・石狩管内、首都圏の若手社会人ともに「転職（一般企業）」が最も多い。



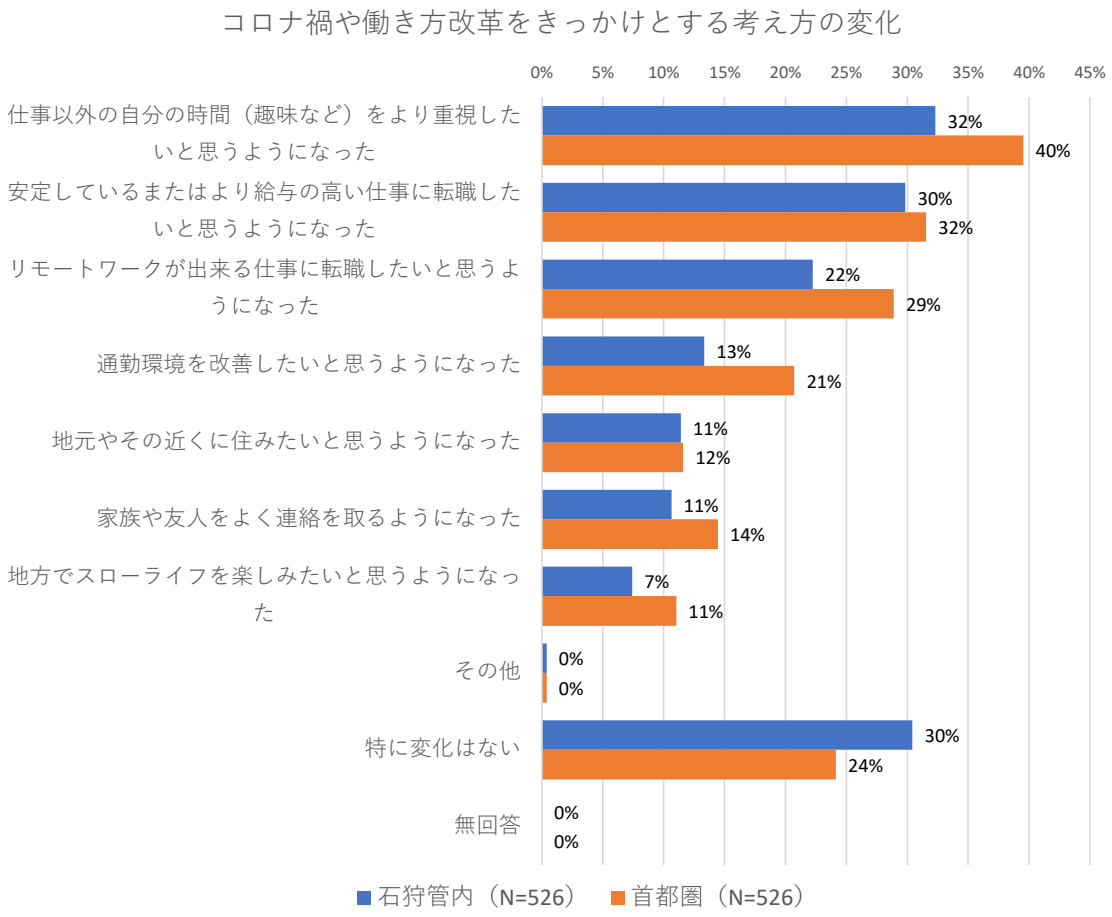
（10）地元（出身地等）に戻るとした場合の情報源（複数回答）

・石狩管内の若手社会人は「転職サイト」（25%）、「親、友人、知事などを通じて」（16%）、「転職エージェント」（11%）の順となっている。
・首都圏の若手社会人は「転職サイト」（32%）、「転職エージェント」（17%）、「親、友人、知人などを通して」（13%）の順となっている。



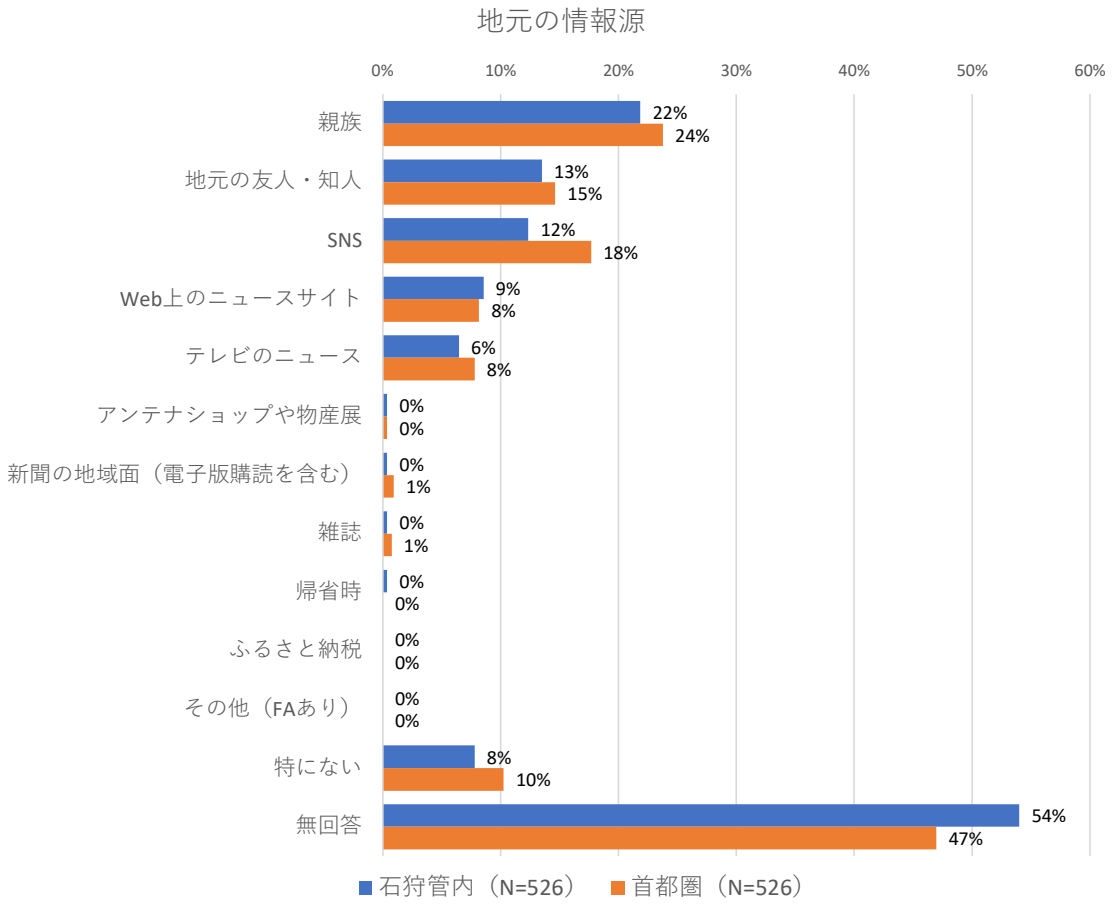
（11）コロナ禍や働き方改革をきっかけとする考え方の変化（複数回答）

・石狩管内・首都圏の若手社会人ともに「仕事以外の自分の時間（趣味など）をより重視したいと思うようになった」、「安定しているまたはより給与の高い仕事に転職したいと思うようになった」、「リモートワークが出来る仕事に転職したいと思うようになった」の順となっている。



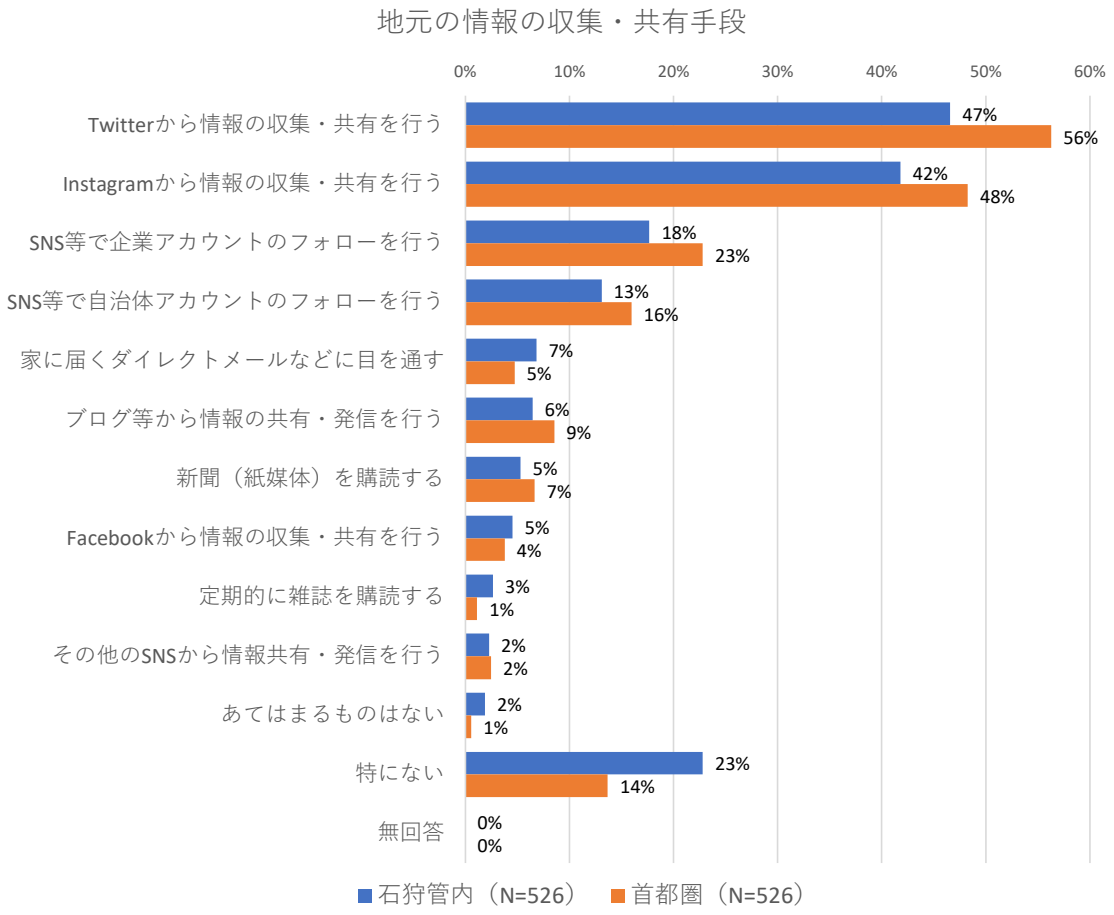
（12）地元の情報源（複数回答）

・石狩管内の若手社会人は「親族」（22%）、「地元の友人・知人」（13%）、「SNS」（12%）の順となっている。
・首都圏の若手社会人は「親族」（24%）、「SNS」（18%）、「地元の友人・知人」（15%）の順となっている。



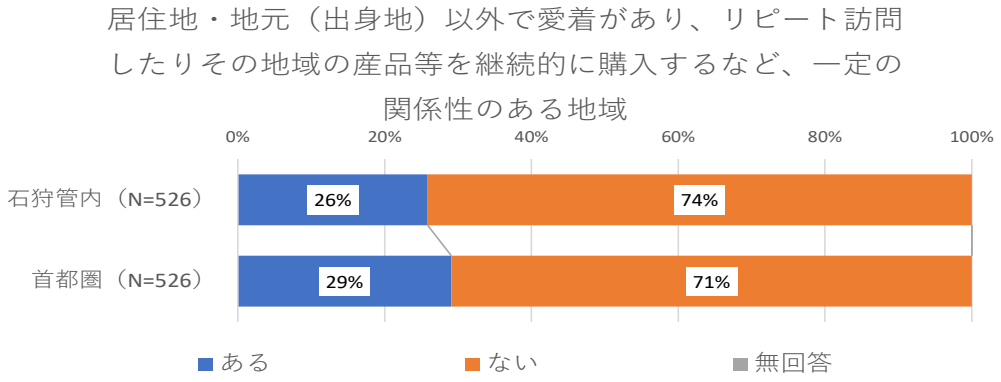
（13）地元の情報の収集・共有手段（複数回答）

・石狩管内の若手社会人は、「Twitter から情報の収集・共有を行う」（47%）、「Instagram から情報の収集・共有を行う」（42%）、「SNS 等で企業アカウントのフォローを行う」（18%）となっている。
・首都圏の若手社会人は、「Twitter から情報の収集・共有を行う」（56%）、「Instagram から情報の収集・共有を行う」（48%）、「SNS 等で企業アカウントのフォローを行う」（23%）となっている。



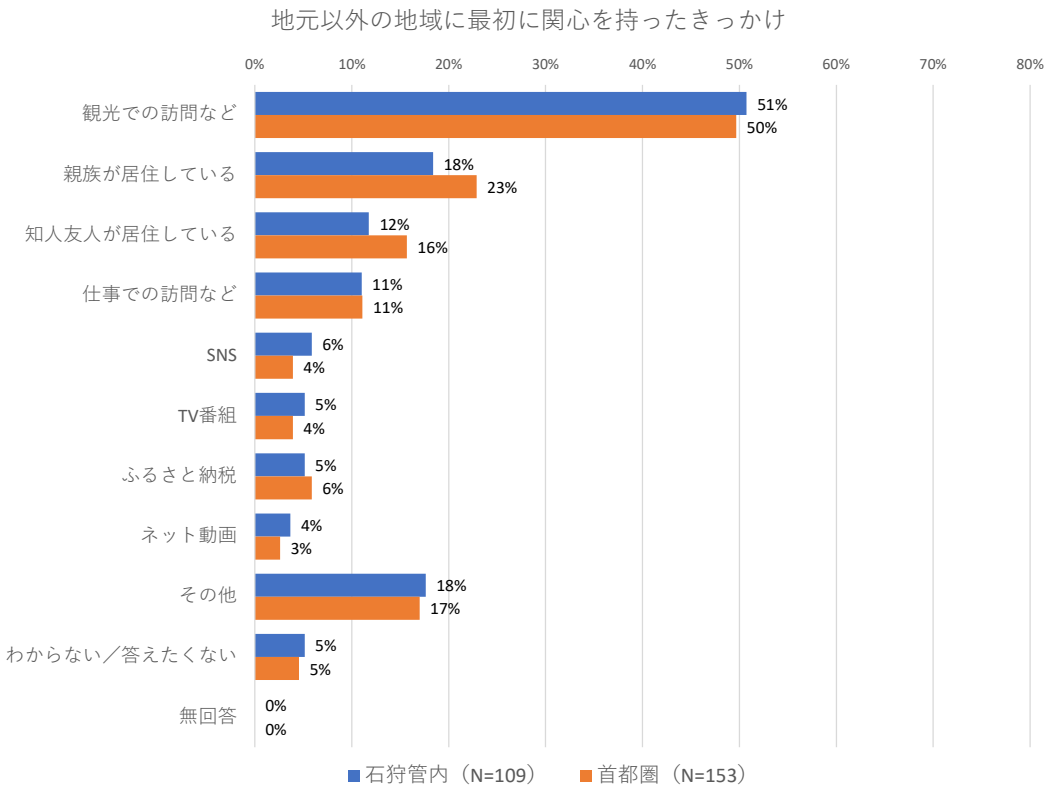
（14）居住地・地元（出身地）以外で愛着があり、リピート訪問したりその地域の産品等を継続的に購入するなど、一定の関係性のある地域

・石狩管内の若手社会人は 26%、首都圏の若手社会人は 29%が「(関係性のある地域が）ある」と回答している。



（15）地元以外の地域に最初に関心をもったきっかけ（複数回答）

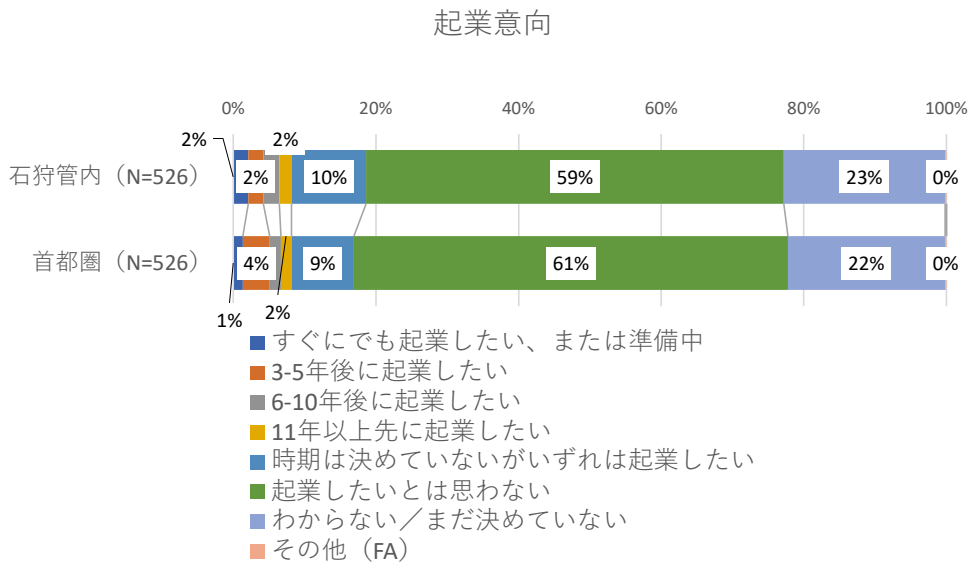
・「関係性のある地域がある」者に、最初に関心を持ったきっかけについて聞いたところ、石狩管内・首都圏の若手社会人ともに「観光での訪問など」（約 50%）が最も多く、「親族が居住している」、「知人友人が居住している」の順となっている。



（16）起業意向

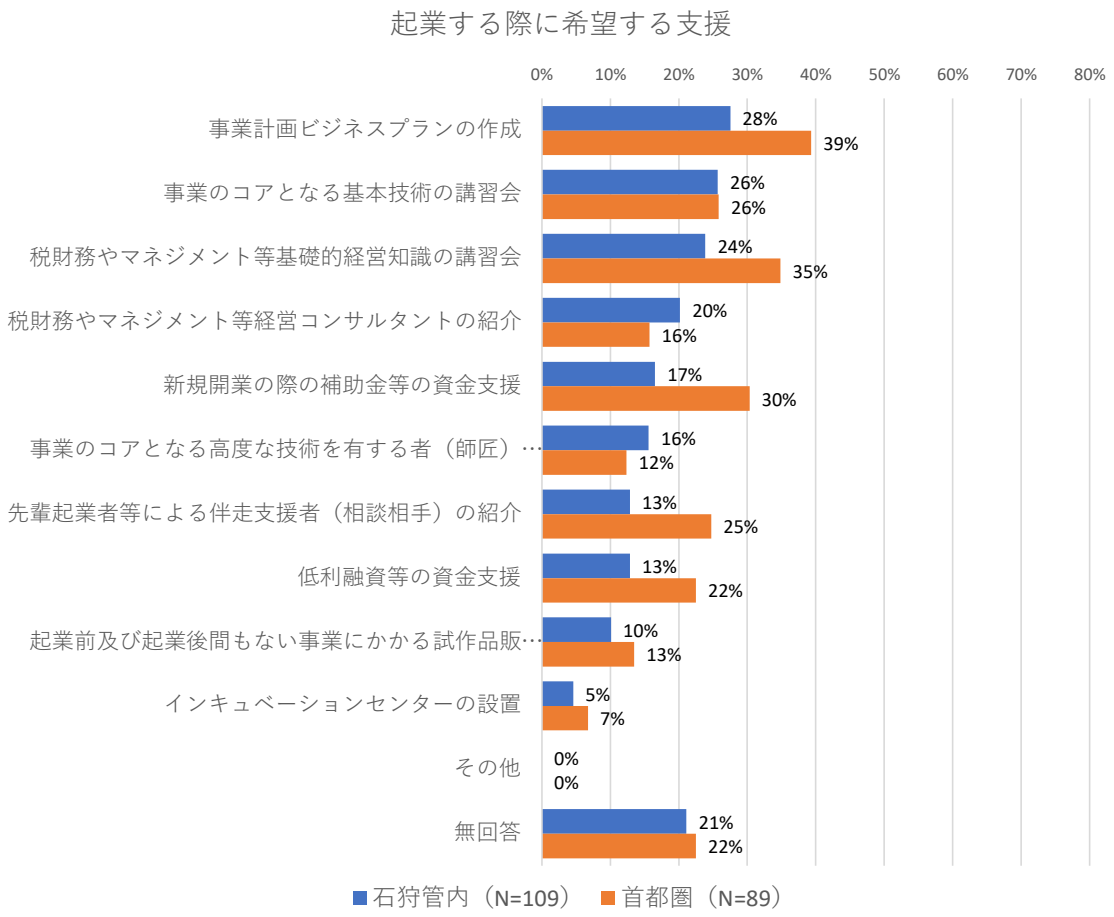
①意向

・時期は問わず、起業意向を持つ者は、石狩管内の若手社会人が 18%、首都圏の若手社会人が 17%となっている。



②起業する際に希望する支援（複数回答）

・起業意向を持つ者に希望する支援について聞いた
・石狩管内の若手社会人は、「事業計画ビジネスプランの作成」（28%）、「事業のコアとなる基本技術の講習会」（26%）、「税財務やマネジメント等基礎的経営知識の講習会」（24%）の順となっている。
・首都圏の若手社会人は「事業計画ビジネスプランの作成」（39%）、「税財務やマネジメント等基礎的経営知識の講習会」（35%）、「新規開業の際の補助金等の資金支援」（30%）の順となっている。



第６章　石狩管内若手社会人へのインタビュー調査

１　調査の概要

（１）調査内容

・アンケート調査の掘り下げを目的として、石狩管内の若手社会人に就活の状況、働き方への意識、地元定着意向等を尋ねるインタビュー調査を実施した。

（２）参加者募集

・受託事業者のネットワークから、地元出身者が比較的多い企業等を抽出し、協力を依頼した。

（３）実施状況

・4 社の協力を得て、4 名にインタビューした。

２　調査結果

（１）札幌市出身 20 代女性、札幌市内企業に在籍

・大学は札幌の実家から通学。
・就活時は、地元企業、首都圏企業の両方を見ていた。首都圏企業は、30～40 代になった時に札幌に戻る可能性を踏まえ、札幌に拠点があるところを見ていた。
・インターンシップは 2 社ほど 1 週間ずつ参加。参加したことでむしろ関心が薄まり、異なる業種に就職した。
・札幌市で生まれ育ったので、就職後も違和感なく過ごしてきた。
・テレワークはほとんど経験していない。
・コロナ禍で世の中が不安定になるなかで、慣れ親しんだ札幌で生活していることは良かったと思う。一方、キャリアアップという意味では首都圏にいた方がいろいろな経験ができたという気持ちもある。
・コロナ禍では現状の暮らしを維持する予定。今後、首都圏企業に転職する可能性はある。

（２）埼玉県出身 20 代男性、札幌市内企業に在籍

・埼玉県の実家から都内の大学に通学。
・就活時は、地方勤務への抵抗はなく、学んだことを活かせる企業という視点で見ていた。また、教員免許を持っており教師になる道も考えていた。学内企業説明会などにも参加したが、最終的には研究室と繋がりの深い企業に入社した。
・自身は元々北海道と地縁はない。また、地方勤務にも抵抗がなく、北海道の企業を知る機会があれば考えていたかもしれない（知る機会がなかった）。

・東京本社の企業に入社し、1年半前に本社から札幌に転勤。
・札幌市は想像していたより都会で、夏は過ごしやすく快適な日々を過ごしている。冬は大変だったが、暮らしていけないと思うほどではなかった。
・コロナ禍ではあるが、感染状況をみながら休日に道内を回っている。
・テレワークは感染状況のレベルに合わせた会社の基準があり、それに合わせて適宜実施している。重要な商談は対面でおこなっている。
・札幌での生活に特に不満はないが、今後のキャリアや会社の方針（地方勤務を経験させて将来的に本社に戻す）ということを考えれば、首都圏に戻る可能性が高い。電車の混み具合等を考えるとコロナ禍で戻るのは少々不安がある

（３）札幌市出身20代男性、札幌市内の企業に勤務

・札幌市内の大学卒業後、同社に就職。初任地は滝川市で勤務し、2年目から札幌市に転勤。
・就活時から地元に残りたいという気持ちが強かったが、道内企業だけに絞るのではなく道内企業7割道外企業3割くらいの割合でみていた。
・インターンシップには参加しなかった。企業を知るには短い時間のインターンシップでは難しいと思うが、道内企業は長期のインターンシップが少ない。この点は首都圏と比較して遅れていると思う。
・大学の専攻と現在の仕事はあまり関係がない。
・当面は札幌で生活する予定だが、道外の企業で働いてみたいという気持ちが全くないわけではない。勤務先の業種とは異なる業種で興味のある分野もある。状況をみながら考えていく予定。
・同期は地元出身者が多い。札幌市以外の勤務を敬遠している同期もいる。
・自分も含めてだが、物欲がないというか仕事よりもプライベート、お金よりもやりがい重視という印象。
・現在の担当業務がテレワークが難しいのでテレワークはしていないが、出勤しないで働くことが通常のような環境に魅力を感じる。

（４）小樽市出身20代男性、札幌市内の企業に勤務

・札幌市内の大学を卒業後、札幌市内の教育関係の仕事を経て、現在の勤務先に転職。
・現在の会社は札幌のみ（関連会社は東京にある）。本人が希望しない限りは札幌勤務が続く見込み。
・家族や友人と離れたくない、本州の気候では暮らしたくない、人が多いのも嫌だった等の理由で就職活動は全て札幌周辺で行ってきた。合同企業説明会に参加したこともある。今後も地元を離れるつもりはない。
・入社直後にコロナ禍でテレワークになってしまった。家族が自宅で仕事をする職業

で、多少の憧れはあったが、実際にやってみると自分にはあまり合っていないように感じている。

・現状、繁忙期を除き、在宅勤務もできるが、夏の暑い時期のクーラー代はどうなるのか、クーラーのない家での仕事は困難といった声が社内にある。在宅勤務に係る社内制度は現状ない。